

企画趣旨(企画案内ポスターから引用)

国際的民間交流と平和運動の歴史とアクチュアリティ

——青い目の人形と答礼人形の辿った歴史から——

1927年、同志社大学・京都大学で教鞭を執った米国人宣教師ギュリック博士が中心となり、アメリカの子供と親たちに呼び掛けて約1万3千体の「青い目の人形」が日本に送られた。これを受けて、日本では澁澤榮一らが、豪華な日本人形58体を「答礼人形」として送った。答礼人形は、道府県や六大都市の代表として、それぞれの地域にちなんだ名を持ち、愛知県からも「ミス愛知」「ミス名古屋」が海を渡った。

時代の狂気の中で、青い目の人形の多くは破壊され、答礼人形も少なからず行方不明になった。しかし、困難な時代を乗り越え、今日でも青い目の人形と答礼人形を探し出す運動や、人形を通しての日米の民間交流は続いている。太平洋を挟んで、人形を通して90年間にわたって民間主導での平和交流が続けられてきたこと自体、世界的にみても稀有なことであり、単なる歴史的一幕に留まらない今日的、未来的価値を持っている。

このなかで、2013年に「ミス愛知」の所在が正式に確認¹⁾され、これを受けて2017年の里帰りに向けた運動が、愛知県でも立ち上がった。その「答礼人形を里帰りさせる会」の設立を記念して、人形を通じた国際的な民間交流の「歴史」、「現在の到達点」、そして「未来の可能性」を考えるシンポジウムを開催する。

文責：近藤暁夫

¹⁾ 実際にミス愛知とみられる人形が発見されたのは2010年、正式に「ミス愛知」であると確認されたのは2012年であるが、ここではポスターのままとした。